

島津齊彬公

中谷宇吉郎

青空文庫

昭和十九年の暮に、岩波文庫の一冊として『島津斉彬言行録』が出版された。これにはまきのしんけんはく牧野伸顕伯の序文がついている。

当時既に日本は断末魔の境にあり、この本なども、ぼろぼろのわらばんし藁半紙のような紙に印刷されているまことに粗末な本であるが、これは私にとっては、大切な本の一つである。

牧野伯とは、思わぬ機縁で、今度の戦争の初め頃から、時々御目おめにかかっていた。ある晩、牧野伯が、斉彬公の話をもち出され、幕末のあの混乱期に、西欧の科学と技術とを採り入れ、明治の近代国家日本の基盤を作った、斉彬公の業績について話をされた。そして「いま、『言行録』の原稿を岩波に渡してあるが、本が出来たら、一冊とうじょう東条にやつて、読んでもらうつもりだ」と言っておられた。

牧野伯は、あの老年にもかかわらず、頭が非常に新しく、当時の日本の科学と技術とでは、米英と戦って勝味のないことを、よく知っておられた。それで斉彬公の達識に見習って、日本の科学の確立からはかれということ、東条首相に教えるつもりのものであった。しかし当時の出版事情では、こういう本の印刷は非常に遅れ、終戦前年の十一月に、やっと出来上った。牧野伯は「やっと出来上ったが、もう間に合わない」といっておられた。

この本を読んで、私は非常に驚いた。斉彬公は、非常に高い科学精神と、恐るべき直観力とを兼ね備えた稀まれな天賦てんぷの人であつたことを初めて知った。その業績は、まことに多岐にわたり、その後の日本の近代工業の基礎は、ほとんど斉彬公によつて作られたともいえるのである。少くもその芽生えは、此処ここにあつたということは断言出来る。時は浦賀うらがに黒船が迫り、下関しもとのせきには砲声が響く直前の頃であつた。幕府では沿岸警備のために、寺院の釣鐘つりがねを運び、口を海に向けて並べていた。黒船から見た時に、大砲と見えるだろうというのである。

その時に斉彬公は、まず大砲と軍艦との建造を思い立った。そのためには、製鉄用の反射炉と熔鋳炉とを造らねばならない。鉄が出来たとしても、大砲の孔あなをくるためには、鑽さ開台んかいだいが必要である。大砲だけでは戦争は出来ないのです、地雷じらい水雷製造所もつくつた。水雷は海防のため鹿児島湾内に伏せ、地雷は鋌山発掘のために使われた。

最大の事業は、蒸気船の建造であつた。船体もちろんであるが、蒸気機関もまず小模型から作つて試験するという調子であつたから、困難の度はおして知るべきであつた。しかし遂に軍艦昇平丸しょうへいまるを作り上げたのであるから、まさに一つの驚異である。

日本民族の科学性を論ずる場合に、斉彬公はまず第一に研究さるべき人である。斉彬公

の研究者は多数あることと思うが、教示を得られれば幸いである。

（昭和三十年十月二十日）

青空文庫情報

底本：「中谷宇吉郎随筆集」岩波文庫、岩波書店

1988（昭和63）年9月16日第1刷発行

2011（平成23）年1月6日第26刷発行

底本の親本：「百日物語」文藝春秋新社

1956（昭和31）年

初出：「西日本新聞」

1955（昭和30）年10月20日

※表題は底本では、「島津斉彬公《しまづなりあきらこう》」となっています。

入力：門田裕志

校正：川山隆

2013年1月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

島津齊彬公

中谷宇吉郎

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>